



江戸時代の西山公園（当時は嚮陽溪と呼ばれていた）の様子。

鯖江藩第7代藩主間部詮勝（まなべあきかつ）公は、安政の大獄時の老中（大老・井伊直弼に仕えた老中）としても著名ですが、鯖江では現在の西山公園一帯を開墾し嚮陽溪と命名しました。この嚮陽溪は、詮勝公が領民と共に憩おうと築いた庭園で、藩主が領民の為に開いた庭としては非常に珍しくこのような例は全国でも水戸の偕楽園だけ（鯖江市HPの記述）と聞いています。昨年には、日本歴史公園百選にも選ばれました。

安政の大獄と間部公

鯖江藩第7代藩主間部詮勝（まなべあきかつ）公は、大老 井伊直弼の時の老中です。白い矢印は、鯖江藩の屋敷があった場所です。



今昔より参照)

三輪信一著 鯖江今昔
鯖江の地名の由来
崇神天皇の御代、北陸地方平定のため、四道將軍の一人として孝元天皇の皇子大彥命が遣わされた日本書紀舟津社記参照)命は古墳の山として有名な王山に陣を置き賊を平定した。この戦の時「虚空から佐波矢落下し敵魁師に当たり死す」と明治時代の地誌書「さむしろ」に記録されている。この矢が鯖の尾に似ていたところから、この地を鯖矢と呼ぶようになり、後に鯖矢が訛つて鯖江になったと伝えられている。また、一説には「鯖矢」の鯖と深江の江を取って鯖江になったとも伝えられている。鯖江という地名は太平記(三七一)年頃成立)にも見られる。鯖江



明治大学創設者の一人
矢代 操

明治大学創設者の一人 矢代 操(やしろみさお)

(写真の胸像は鯖江郷土資料館前庭にあります)

嘉永5年(1852年)鯖江藩士松本伝吾三男として出生、明治2年同藩士矢代家の養嗣子。3年同藩貢進生となり、大学南校(現在の東京大学)、明法寮を経9年講法学社・時習社設立に参画、12年元老院刑法草按審査局治罪法草按審査局を兼務し、14年に『明治法律学校』を創設した。

明治法律学校、のちの明治大学は岸本辰雄・宮城浩蔵・矢代操によって創立された。岸本は鳥取藩、宮城は天童藩、矢代は鯖江藩といったように3人とも地方、それもかなり江戸から隔てた藩内で、しかも禄高が低い士族の家に、嘉永年間に生まれ、育った。(明治大学HPより転載)17年日本法律学士取得、23年貴族院議事課長。

24年没 総合案内『明治大学』(1977年4月25日発行)、『自由への学譜』(1995年5月31日発行)参照作成



東京帝国大学初代総長
渡辺 洪基

1847~1901年(弘化4年~明治34年)初代東京帝国大学総長。府中善行寺町(現、越前市相生町)に生まれる。医師渡辺静庵の長男。府中の立教館、福井の済世館で学んだ後、18歳で江戸に出て佐倉の佐藤舜海に師事。

慶應義塾卒業後、会津で英学校を開く。1870年(明治3年)24歳で外務省に入り、翌年岩倉具視らの遣欧使節に随行し、帰国後太政官・外務省・司法省に勤務。1885年(明治18年)39歳で東京府知事となり、翌年東京帝国大学の創設とともに初代総長となる。

後、オーストラリア公使、衆議院議員、貴族院議員、政友会設立委員となる。

邪馬台国は鯖江に？
この鯖江が、畿内説と九州説で長年争われてきた邪馬台国論争に関し、ある異説に登場する。この興味深い珍説の提唱者は、歌舞伎演出家で映画監督としても知られた武智鉄二氏だ。「邪馬台国」はなかつたの著者古田武彦氏のように、魏志倭人伝には、邪馬壹国」と書かれているにもかかわらず古来「壹(一)を(臺台)」と手直して解釈し邪馬台国と読み替えてきたことに疑義を呈する。そしてこれは「サバイ」と読み今の鯖江(福井県)にあたる主張する大胆な説だ。邪の字にヤの音が生じるのは後世のことで、魏の当時の音はサ、馬は「バ」で「マ」も後世の慣用音、壹は「一」に通じ、「イ」であり、邪馬壹は「サバイ」だと説いている。これが、鯖江の由来かも知れない。